


再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：北海道開発局都市住宅課
担当課長名：岡部 和憲

事業名 札幌新道	事業区分 街路	事業主体 札幌市
起終点 自：北海道札幌市清田区平岡10条2丁目 至：北海道札幌市清田区里塚3条6丁目	延長 3.8km	
事業概要 札幌新道は、昭和48年に都市計画決定され、本市の骨格幹線道路である「2連携1環状1バイパス11放射道路」のバイパス道路に位置づけられており、都心通過交通の軽減のため、早期完成が期待される国道区間21.5kmを含む延長25.4kmの道路である。		
H7年度事業化	S48年度都市計画決定 (H年度変更)	H8年度用地着手 H7年度工事着手
全体事業費	約118億円	事業進捗率 60% 供用済延長 1.8km
計画交通量	14,600～32,200台/日	
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 8.1 (残事業) 1.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 41/129億円 (事業費：40/128億円) 維持管理費：0.5/1億円
	総便益 (残事業)/(事業全体) 50/1038億円 (走行時間短縮便益：48/951億円) 走行費用減少便益：0.2/72億円 交通事故減少便益：2/15億円	基準年 平成16年
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（新千歳空港へのアクセス向上が見込まれる） ・物流効率化の支援（小樽港、及び苫小牧港へのアクセス向上が見込まれる） 他3項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 ・札幌新道は、道央自動車道札幌南ICの渋滞対策である札幌南IC改築事業に不可欠であるため、北海道開発局、日本道路公団、札幌市で構成する渋滞対策検討会でIC改築関連事業の着手について確認（平成8年4月） ・札幌市と近隣自治体で構成する札幌都市圏連絡会議において、広域連携道路として札幌新道の早期整備要望が提出されている。（平成14・15年度）		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成13年度に道央自動車道札幌南IC改築事業が完了し、関連して札幌新道の交通量も増加しているが、全線供用していないため、現在の接続点である大曲通に計画以上の交通量が流れており、大曲通及び接続する北広島市内の交通状況が悪化している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・用地買収、工事ともに順調に推移しており、既に1.8kmを供用開始している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・用地買収については、平成17年度までに完了を予定している。工事については、擁壁等構造物の施工が多いことから、平成21年度の供用開始を予定している。		
施設の構造や工法の変更等 ・擁壁構造となる部分については、積極的に補強土壁工法を採用するなどコスト縮減を図っている		
対応方針	事業継続	
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。	
事業概要図		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。